

別表1-3 歯科衛生士科

分野	教育内容	基準 単位	単位数	年間授業時数			年間授業 時間数	形態	
				1年	2年	3年			
基礎 分野	科学的思考の基盤	10	生物学	2	30		30	講義	
			化学(環境学概論含む)	2	30		30	講義	
	人間と生活		道徳論	1	16		16	講義	
			教育原理	2		30	30	講義	
			社会福祉概論	1		16	16	講義	
			情報処理	2	60		60	実習	
			英語Ⅰ(英会話を含む)	1	16		16	講義	
英語Ⅱ(英会話を含む)	1	16		16	講義				
専門 基礎 分野	人体(歯・口腔を除く。)の構 造と機能	解剖学	2	30		30	講義		
		生理学	2	30		30	講義		
		生化学	1	16		16	講義		
	歯・口腔の構造と機能	15	口腔解剖学	2	30		30	講義	
		歯牙解剖学(実習)	1	40		40	実習		
	疾病の成り立ち及び回復過 程の促進	組織・発生学	2	32		32	講義		
		病理学・口腔病理学	2	30		30	講義		
		薬理学・口腔薬理学	2		30	30	講義		
	歯・口腔の健康と予防に関 わる人間と社会のしくみ	7	微生物学・口腔微生物学	2	32		32	講義	
		口腔衛生学(歯科衛生統計を含む)	4	46		16	62	講義	
衛生学・公衆衛生学		2		30	30	講義			
衛生行政・社会福祉		2		30	30	講義			
専門 分野	歯科衛生士概論	2	歯科衛生士概論	1	16		16	講義	
		歯科医療倫理学	1	16		16	講義		
	臨床歯科医学	8	歯科臨床概論	2	32		32	講義	
		歯周治療学	2		32	32	講義		
		歯科補綴学	1		16	16	講義		
		歯科麻酔学	1		16	16	講義		
		小児歯科学	1		16	16	講義		
		歯科保存修復学	2		30	30	講義		
		歯内療法学	2		30	30	講義		
		高齢者・障害者歯科 (摂食・嚥下を含む)	3		32	16	48	講義	
		口腔外科学	2		30	30	講義		
		歯科矯正学	2		32	32	講義		
	歯科予防処置論	8	口腔保健管理	2	30		30	講義・演習	
		歯科予防処置法・齲蝕予防処置法	8	60	90	90	240	実習・演習	
	歯科保健指導論	7	栄養指導学	2	30		30	講義	
		歯科保健指導法	8	60	90	90	240	講義・実習・演習	
	歯科診療補助論	9	歯科放射線学	2	16	16	32	講義	
			歯科材料学	1	16		16	講義	
			看護学総論	1			16	16	講義
			救急蘇生法	1			30	30	講義・演習
歯科診療補助法			7	60	90	60	210	実習	
臨地実習・臨床実習	20	臨地実習・臨床実習	21	45	450	450	945	実習	
選 択 必 修 分 野	その他	7	接遇作法・受付事務	1		16	16	講義	
			医療保険事務	2			30	30	講義
			総合学習Ⅰ・Ⅱ	2			60	60	講義・演習・実習
			卒業研究	1			30	30	講義・演習
			陶芸	1		30	30	実習	
			健康と体づくり	1	40		40	実習	
介護技術	5	174		174	講義・演習・実習				
	合計(時間数)	93		122	1,049	1,152	888	3,089	



基礎分野

教育原理

社会福祉概論

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
教育原理	2学年	後期	講義	2	15
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
本堂 敦	金曜日・1講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p><一般目標> 教育の定義・目的を学び歯科衛生士としての資質の向上を目指す。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の概念、理論から人間理解に努める。 ・ 教育の制度の知識を習得し、理解を深める。 					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各テーマごとに講義し、要点を記録させる。 ・ 図や表算の資料を活用し、基礎的事項を学ばせる。 ・ レポートの発表の訓練 					
3. 教科書					
教師作成 プリント					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
・ノートを正確にとらせる。発表する能力も高める。					
6. 評価の方法					
定期試験 100%					
7. その他					

回	修復主題	修復内容
1	教育の意義と目的	教育とは
2	歯科衛生士と教育	患者に対する教育の意義
3	教育の諸理論Ⅰ	コメニウス、ロック
4	教育の諸理論Ⅱ	ルソー、ペスタロッチ、フレベール
5	教育の諸理論Ⅲ	モンテッソーリー、ルドルフ、シュタイナー
6	教育の諸理論Ⅳ	デューイ、ブルナー
7	日本の教育理論Ⅰ	中江藤樹、貝原益軒、明治時代までの教育：寺子屋、藩校
8	日本の教育理論Ⅱ	森 有礼、教育制度の始まり
9	日本の教育理論Ⅲ	倉橋惣三、及川平治
10	教育の実践	日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学習指導要領
11	教育の制度	学校制度、学校の種類
12	教育法規	生涯学習とは？ 今後の動向
13	生涯学習の基礎	「特別支援教育」の歴史と現状
14	教育の指導の原理	学校完全週五日制の実態と「ゆとり教育」
15	現代の教育の課題	情報化社会と学校教育、少子化社会の到来と児童生徒たち

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
社会福祉概論	2 学年	前期	講義	1	8
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccess	
鈴木 智也	火曜日・2 講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p><一般目標> 人間、家族、生活、社会に関する基礎を知り、福祉対象者への確かな支援を行うため</p> <p><到達目標> 社会福祉の知識を蓄え、理念や制度を把握する。</p>					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
講義					
3. 教科書					
なし					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
支援者としての立場や利用者としての立場を考えておくこと。					
6. 評価の方法					
定期試験 100%					
7. その他					

令和7年度（15期生） 年間授業計画 科目：社会福祉概論

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション	社会保障の現状と社会福祉の意味
2	社会福祉の理念	共生社会を目指して
3	社会福祉の歴史的変遷	基礎構造改革への流れ
4	子ども家庭支援と社会福祉	日本で里親が寝付かない理由を考える
5	社会福祉の制度と法体系	社会福祉事業法から社会福祉法へ
6	社会福祉施設	日本の社会福祉の現状
7	社会福祉の専門職	専門職の種類とその内容
8	社会保障と関連制度	子どもの貧困の実態と今後の展望

專門基礎分野

藥理学・口腔藥理学

衛生学・公衆衛生学

衛生行政・社会福祉

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
薬理学	2 学年	前期	講義	2	15
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
高橋 正太郎 / 山本 淳子	月曜日・2・3講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p><一般目標> 薬物が生体に及ぼす影響を理解するために、薬物の性質、作用および作用機序に関する基本的知識を修得する。</p> <p><到達目標> ①薬物の作用機序を説明できる。</p> <p>②毒薬、劇薬および麻薬などの表示と保管を説明できる。</p> <p>③代表的な中枢神経作用薬の薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。</p> <p>④代表的な末梢神経作用薬の薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。</p> <p>⑤代表的な局所麻酔薬の列記できる。</p> <p>⑥循環器系に作用する代表的な薬物の薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。</p> <p>⑦呼吸器系に作用する代表的な薬物の薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。</p> <p>⑧血液凝固の過程を概説できる。</p> <p>⑨代表的な止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬の薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。</p> <p>⑩代表的な抗炎症薬、解熱鎮痛薬、消炎酵素薬の薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。</p> <p>⑪う蝕の予防に用いる薬の薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。</p> <p>⑫歯・歯髄疾患に用いる薬の薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。</p> <p>⑬歯周治療に用いる薬の薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。</p> <p>⑭服薬に関する一般的事項を説明できる。</p> <p>⑮対象者別の服薬指導について説明できる。</p>					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
教科書を中心に講義					
3. 教科書					
歯科衛生士学シリーズ:「薬理学 第2版」医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
理由のない遅刻・途中退席は認めない。					
授業に差し障りのある私語・居眠りは認めない。					
携帯電話・スマートフォンのスイッチは切る事。					
6. 評価の方法					
・ 定期試験 100%					
7. その他					

回	修復主題	修復内容
1	薬理学総論Ⅰ	薬理学・薬理作用について理解する。
2	薬理学総論Ⅱ	薬物投与の問題点、医薬品について理解する。
3	中枢神経系と薬	中枢神経系に作用する薬物について理解する。
4	末梢神経系と薬Ⅰ	末梢神経系に作用する薬物について理解する。
5	末梢神経系と薬Ⅱ	局所麻酔について理解する。
6	循環呼吸系と薬	循環系、呼吸系に作用する薬物について理解する。
7	血液と薬	血液の組成、血液凝固について理解する。
8	炎症と薬	抗炎症薬について理解する。
9	ビタミン・ホルモンと薬	ビタミン、ホルモンについて理解する。
10	感染症と薬	消毒薬について理解する。
11	悪性腫瘍と薬	悪性腫瘍と抗悪性腫瘍薬について理解する。
12	免疫・漢方医薬と薬	免疫、漢方について理解する。
13	歯・歯髄疾患と薬	う蝕、根管治療に使う薬物について理解する。
14	歯周疾患と薬	歯周治療に用いる薬物について理解する。
15	顎・口腔粘膜疾患と薬、服薬	炎症性疾患に用いる薬物、服薬指導について理解する。

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
衛生学・公衆衛生学	2 学年	前期	講義	2	15
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
竹村 昌浩	水曜日・4 講目 木曜日・3 講目			講義時に連絡	

1. 健康を左右する環境(衛生学)

<一般目標> 健康を左右する環境衛生の重要性を理解し、個人と集団に対する健康障害の予防能力を高める態度を養う。

<到達目標>

- 1) 総論
 - ①健康の定義と国民の権利について説明できる。
 - ②プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーションを概説できる。
 - ③第一次予防、第二次予防および第三次予防について説明できる。
- 2) 疫学
 - ①疫学の定義を説明できる。
 - ②疾病や異常の発生要因(因子)を列挙できる。
 - ③多要因疾病発生論を説明できる。
 - ④疾病の発生や流行状態を表す指標を列挙できる。
 - ⑤疫学研究の方法を説明できる。
- 3) 人口
 - ①わが国と世界における人口の現状と推移の概要を説明できる。
 - ②人口統計における静態統計と動態統計について説明できる。
 - ③人口構造の表し方として、人口ピラミッドや各種指標について説明できる。
 - ④人口の高齢者について概説できる。
 - ⑤生命表の概要を理解して、日本人の平均寿命の動向について説明できる。
- 4) 健康と環境
 - ①環境の重要性が理解できる。
 - ②人間と環境の関係を説明できる。
 - ③健康と環境の関係を説明できる。
 - ④地域規模で発生している環境破壊への対応を説明できる。
 - ⑤公害問題を解決するための方法を選択できる。
 - ⑥廃棄物を減量するための方法を列挙できる。
- 5) 感染症
 - ①感染症の概念と感染成立の三要因について説明できる。
 - ②感染予防・流行防止の基本的考え方と対策について説明できる。
 - ③感染症対策上の問題点について説明できる。
 - ④感染症の分類とその内容について説明できる。
 - ⑤主な感染症とその動向について説明できる。
- 6) 食品と健康
 - ①わが国の食中毒の発生状況を説明できる。
 - ②食中毒の分類と特徴を説明できる。
 - ③食品の安全性確保のための方策を列挙できる。
 - ④日本人の食事摂取基準について、その基本的概念を説明できる。
 - ⑤わが国の食生活の現状と問題点について説明できる。
 - ⑥健康づくりのための食生活指針や食育の推進について説明できる。

2. 健康に関わる地域の役割(公衆衛生学)

<一般目標> 生活と健康に関わる社会の仕組みを理解し、地域社会における保健対策の基本的な考え方を学び、地域集団に対する疾病の予防能力を高める態度を養う。

<到達目標>

- 1) 地域保健・公衆衛生総論
 - ①地域保健を担う組織の仕組みと特徴を概説できる。
 - ②ヘルスプロモーションやノーマライゼーションなどの地域保健の新たな概念を概説できる。
 - ③地域保健の基本的な進め方を概説できる。
 - ④地域歯科保健に関係する保健福祉関係施策の変革について概説できる。
 - ⑤ライフステージごとの口腔保健施策を概説できる。
- 2) 母子保健
 - ①わが国の母子保健の概略を説明できる。
 - ②母子健康手帳に記載された、口腔に関係した質問項目を列挙できる。
 - ③妊産婦への歯科保健指導の要点を説明できる。
 - ④1歳6ヵ月児・3歳児健康診査の目的を説明できる。
 - ⑤1歳6ヵ月児・3歳児健康診査の結果からう蝕罹患型を正確に分類できる。
 - ⑥う蝕罹患型に応じた歯科保健指導の要点を列挙できる。
 - ⑦妊産婦期と乳幼児期の口腔保健管理について説明できる。
- 3) 学校保健

- ①学校保健の対象者を列挙し、意義を説明できる。
- ②学校において罹患率の高い疾病異常を列挙できる。
- ③学校保健関係職員を列挙し、その役割を説明できる。
- ④学校保健の保健教育と保健管理を概説できる。
- ⑤学校における健康診断を概説できる。
- ⑥学校保健委員会の構成と活動を概説できる。
- ⑦学校歯科健康診断の検査項目を列挙し、事後措置内容を説明できる。
- ⑧学校歯科健康診断の記号を列挙し、基準を説明できる。
- ⑨学校歯科健康診断後のCOとGOの事後措置を説明できる。

4) 成人保健

- ①生活習慣病のリスクファクターを列挙できる。
- ②成人期の口腔保健管理について説明できる。

5) 産業保健

- ①産業保健の目的を説明できる。
- ②産業衛生に関する法規を列挙できる。
- ③職業性疾病を起こす要因を列挙できる。
- ④労働安全衛生法について概説できる。
- ⑤作業安全衛生法について概説できる。
- ⑥職域における健康診断の種類について説明できる。
- ⑦口腔領域に関連のある職業性疾病とそれに対する特殊健康診断について説明できる。

6) 老人保健

- ①高齢者の保健対策を説明できる。
- ②介護保険を説明できる。
- ③介護予防サービスである地域支援事業と新予防給付を説明できる。

7) 精神保健

- ①精神保健の定義を説明できる。
- ②介護保険を説明できる。
- ③介護予防サービスである地域支援事業と新予防給付を説明できる。

3. 授業の進め方 (授業の方法)

教科書に準拠して講義をすすめる。授業の理解度を高めるために、小テストを行うことがある。

4. 教科書

歯科衛生学シリーズ : 「保健生態学」 医歯薬出版株式会社

5. 授業心得

- ・授業のテーマは広範囲にわたっているので、全部覚えるのではなく、理解することに努める。
- ・日常的に新聞やニュースなどで、健康に関わる社会の出来事に関心を持つ。
- ・授業の準備として教科書、参考書などを必ず通読しておくこと。
- ・既習の関連科目と結びつけながら、学ぶことを期待します。

6. 評価の方法

定期試験 100%

令和7年度（15期生） 年間授業計画 科目：衛生学・公衆衛生学

回	修復主題	修復内容
1	総論	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生・公衆衛生の定義 ・ヘルスプロモーション ・予防医学の概念 ・健康の概念 ・健康増進対策 ・国際保健
2	人口	<ul style="list-style-type: none"> ・人口に対する統計 ・生命表 ・人口動態統計
3	環境と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・環境と健康の概念 ・生活環境
4	環境と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物処理 ・環境保全
5	疫学	<ul style="list-style-type: none"> ・疫学の定義および概要 ・疫学研究の方法論 ・疾病、異常（健康障害）の発生要因
6	感染症	<ul style="list-style-type: none"> ・感染と発病 ・感染予防 ・感染の三大要因と予防 ・おもな感染症の動向
7	食品と健康1	<ul style="list-style-type: none"> ・国民栄養の現状と問題点 ・機能的食品 ・メタボリック・シンドローム
8	食品と健康2	<ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生 ①食中毒 ②食品添加物
9	地域保健	<ul style="list-style-type: none"> ・地域保健の概念 ・地域社会と住民の生活 ・地域保健の組織・地域保健計画 ・地域保健活動の進め方
10	母子保健	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健の意義 ・母子保健管理 ・母子保健対策 ・母子保健統計 ・小児保健管理
11	学校保健	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健の意義および概要 ・保健組織活動 ・食育 ・学校保健の活動と組織 ・学校保健活動の推進
12	成人・老人保健	<ul style="list-style-type: none"> ・成人 ・成人保健と老人福祉 ・老人保健の現状
13	産業保健	<ul style="list-style-type: none"> ・産業保健の概念 ・産業保健管理 ・職業性疾病 ・産業保健活動
14	精神保健	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健の意義 ・精神障害の分類 ・精神保健対策 ・心の健康と生涯 ・ライフサイクルからみた精神保健
15	復習とまとめ	

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
衛生行政・社会福祉	2 学年	前期	講義	2	15
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccess	
大串 瑠菜 / 他	火曜日・4 講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p><一般目標> 歯科衛生士としての業務を遂行するために必要な、法的知識や関連職種に関する法律、社会保障制度の基本的知識を学ぶとともに、社会福祉、医療保険の概要について学び、歯科との具体的ななかかわりについて理解する。</p> <p><到達目標> ①衛生行政の目的を理解する。 ②衛生行政機関、衛生関連法規の要点を理解する。 ③歯科医師法・歯科衛生士法・歯科技工士法について理解する。 ④社会福祉、社会保険、公的扶助の役割を理解する。 ⑤医療保険制度の種類と仕組みについて理解する。</p>					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
・講義中心の授業					
3. 教科書					
歯科衛生学シリーズ : 「保健・医療・福祉の制度」 医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会保険					
5. 授業心得					
・ 授業には集中して取り組むこと。					
6. 評価の方法					
定期試験(100%)					
7. その他					

令和7年度（15期生） 年間授業計 科目：衛生行政・社会福祉

回	修復主題	修復内容
1	総論	衛生行政とその目的 衛生行政の沿革
2	〃	衛生行政のいま・これから 衛生行政の組織
3	1章 わが国の医療制度と 歯科衛生士	①はじめに ②わが国の医療制度 ③医療法 ④歯科医師法
4	〃	⑤歯科衛生士法 1. 歯科衛生士法の成り立ち 2. 歯科衛生士法の目的 3. 歯科衛生士の定義と業務
5	〃	⑤歯科衛生士法 4. 免許・歯科衛生士名簿、 登録・免許証交付及び届出 5. 相対的欠格事由 6. 免許の取り消し 7. 指定登録機関
6	〃	⑤歯科衛生士法 8. 歯科衛生士国家試験 9. 受験資格・受験手続等 10. その他の業務上の義務 ⑥歯科技工士法
7	2章 医療関係職種	①歯科医療とかかわる医療関係者 ②保健師助産師看護師法 ③臨床検査技師
8	〃	④診療放射線技師等に関する法律 ⑤言語聴覚士法 ⑥薬剤師法 ⑦その他の医療関係職種に関わる法律
9	3章 その他の関係法規	①地域包括ケアシステム ②地域保健に関する法律 1. 地域保健法 2. 健康増進法
10	〃	②地域保健に関する法律 3. 母児保健法 4. 学校保健安全 5. 労働安全衛生法 6. 精神保健福祉法 ③歯科口腔保健の推進に関する法律
11	〃	④薬事に関連する法規 ⑤その他の衛生法規
12	4章 社会保障	①社会保障とは ②社会保険とは 1. 医療保険 2. 介護保険
13	〃	②社会保険とは 3. 年金保険 4. 労働法規と労働保険 ③社会福祉
14	5章 医療の動向	①国民の健康状態と受療状況 ②医療施設 ③医療従事者 ④国民医療費
15	まとめ	

專門分野

齒周治療学

齒科補綴学

齒科麻醉学

小兒齒科学

齒科保存修復学

高齡者・障害者齒科

口腔外科学

齒科矯正学

齒科予防処置法・齲蝕予防処置法

齒科保健指導法

齒科放射線学

齒科診療補助法

臨地実習・臨床実習

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯周治療学	2 学年	前期	講義	2	16
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccess	
菅 希理夫 / 菅 真希人 / 大原 皓	1 回～6 回(木曜日・3.4 講目) 7 回～11 回(火曜日・3 講目) 12 回～16 回(火曜日・3 講目)			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p><一般目標></p> <p>歯科衛生士業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、診断および治療の基本を理解する。</p> <p><到達目標> ①正常な歯周組織を図説できる。</p> <p>②歯周病の種類と病態を説明できる。</p> <p>③歯周治療の流れを説明できる。</p> <p>④歯周治療の術式と適応症を説明できる。</p> <p>⑤歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。</p> <p>⑥歯周外科手術の介助の概要を説明できる。</p> <p>⑦歯周治療後のメンテナンスの意義を説明できる。</p>					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に沿って説明を加えながら行っていく。 ・症例を実際に検討しながら授業をすすめるので、予習復習を必ずしておくこと。 ・解らないことがあれば、質問をして理解を深めること。 ・スライド・DVD等を利用して授業を行う。 					
3. 教科書					
歯科衛生学シリーズ:「歯周病学」医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
<ul style="list-style-type: none"> ①遅刻・中途退出 ②私語・スマホ(携帯含む)オフ・居眠り ③その他授業に差し障りのある行為に対する諸注意 					
6. 評価の方法					
・定期試験 100%					
7. その他					

回	修復主題	修復内容
1	歯周治療の基礎知識(1) 歯周治療とは	1) 歯周疾患の現状と治療: 歯周疾患の実態・歯周治療の歴史の変遷・歯周治療 2) 歯科衛生士業務と歯周治療
	歯周治療の基礎知識(2) 正常な歯周組織の構造と機能	1) 歯周組織の構造: 歯肉・歯根膜・歯槽骨 2) 歯周組織の機能: 歯の支持・歯周組織の防御機構・歯周組織の修復と再生 ・歯周組織と咬合・審美性の維持・歯周組織の加齢変化
2	歯周治療の基礎知識(3) 歯周疾患①	1) 歯周疾患の分類: 歯肉炎・歯周炎
3	歯周治療の基礎知識(3) 歯周疾患②	1) 歯周疾患の原因: 局所性初発因子・局所性修飾因子・全身性修飾因子・機能性修飾因子 2) 歯周医学: 冠狀動脈疾患・心内膜炎・誤嚥性肺炎・糖尿病・骨粗鬆症・早産・低体重児出産
4	歯周治療の臨床と歯科衛生業務(1) 歯周治療の進め方	1) 歯周疾患の予防と歯周治療の基本 2) 歯周治療の進め方
5	歯周治療の臨床と歯科衛生業務(2) 歯周疾患の診査1	1) 主訴を中心とした一般審査 2) 歯周組織の診査
6	歯周治療の臨床と歯科衛生業務(3) 歯周疾患の診査2	1) 咬合の診査 2) エックス線写真による診査 3) その他の診査
7	歯周治療の臨床と歯科衛生業務(4) 歯周基本治療1	1) 歯周基本治療の目的と効果 2) 歯周基本治療の内容と実際
8	歯周治療の臨床と歯科衛生業務(5) 歯周外科治療1	1) 歯周外科治療の目的と分類 2) 歯周外科治療後の治癒形態 3) 歯周外科治療に用いる器材
9	歯周治療の臨床と歯科衛生業務(6) 歯周外科治療2	1) 種々の歯周外科治療
10	歯周治療の臨床と歯科衛生業務(6) 歯周外科治療3	
11	歯周治療の臨床と歯科衛生業務 (7) 歯周治療としてのリハビリテーション	1) 咬合調整 2) 矯正治療 3) 歯の固定法 4) インプラントによる治療
	歯周治療の臨床と歯科衛生業務 (8) メインテナンス	1) メインテナンスの重要性 2) メインテナンスに移行する時期 3) メインテナンスの内容
12	歯周治療の臨床と歯科衛生業務 (9) 歯周治療における歯科衛生士の役割1	1) 歯周治療の進め方 2) 歯周組織検査・診断時の補助
	歯周治療の臨床と歯科衛生業務 (10) 歯周治療における歯科衛生士の役割2	1) リスクファクターなどに対する指導
13	歯周治療の臨床と歯科衛生業務 (11) 歯周治療における歯科衛生士の役割	1) スケーリング・ルートプレーニング
14	歯周治療の臨床と歯科衛生業務 (11) 歯周治療における歯科衛生士の役割	//
15	歯周治療の臨床と歯科衛生業務 (12) 歯周治療における歯科衛生士の役割4	1) 歯周外科治療
16	歯周治療の臨床と歯科衛生業務(13) 歯周治療における歯科衛生士の役割5	1) メインテナンス
	歯周治療の臨床と歯科衛生業務(14) 歯周治療における歯科衛生士の役割6	1) 診療室と器具・器材の管理

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯科補綴学	2 学年	前期	講義	1	8
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccees	
飯田 唯勝	水曜日・3講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p><一般目標></p> <p>歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部欠損に対する咬合修復方法を理解する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> ①歯列の形態と位置的關係、顎口腔系の機能、咬合について説明できる。 ②補綴装置の種類と適応を説明できる。 ③支台装置とポンティックの選択、特徴および製作法を概説できる。 ④可撤性義歯の支持機構、把持機構および維持機構を説明できる。 ⑤補綴治療に用いられる器材について説明できる。 ⑥補綴治療の臨床ステップおよび技工操作を概説できる。 ⑦義歯製作のための咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。 ⑧咬合採得する下顎位と咬合採得法を概説できる。 ⑨義歯の調整、ライニング、リベースおよび修理を概説できる。 ⑩修復後、義歯装着後における定期健診の重要性を説明し、指導できる。 					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
授業内容の板書、小テスト					
3. 教科書					
歯科衛生学シリーズ:「 歯科補綴学」 医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度・出席を重視します。(理由のない遅刻・退出は認めません) 2. 授業の進行に差し障りのある私語・居眠り・スマートフォンの使用は認めません。 3. 再三にわたる注意をうける際には相当の指導と評価を行います。 4. 授業内容の予習・復習を行って下さい。 					
6. 評価の方法					
・定期試験 100%					
7. その他					

令和7年度（15期生） 年間授業計画 科目：歯科補綴学

回	修復主題	修復内容
1	I 基礎編 歯科補綴治療とは 歯科補綴治療の基礎知識 //	・歯科補綴とは ・補綴治療における歯科衛生士の役割 ・歯列の形態と咬合関係・顎運動（1-2） ・歯の欠損に伴う障害（1-3）
2	II 臨床編 クラウン ① クラウン ②	・概要と分類（1-4） ・製作過程（2-2） ・製作過程（2-2）
3	クラウン ③ ブリッジ ①	・製作過程（2-6） 技工 ・装着と患者指導など ・概要と分類（1-4） ・製作過程（2-2）
4	ブリッジ② 全部床義歯① 全部床義歯②	・製作過程（2-6） 技工 ・分類・臨床ステップ概要（2-3） ・製作過程（2-6）
5	全部床義歯③部分床義歯① // 部分床義歯②	・製作過程・患者指導（3-3） ・部分床義歯とは ・ブリッジ、インプラントの比較 ・分類、構成要素（維持装置 クラスプとアタッチメント）（1-4）
6	部分床義歯③ 部分床義歯④	・構成要素（連絡装置・義歯床・人口歯）（1-4） ・臨床ステップ概要（印象～完成・装着）・患者指導（3-3）
7	特殊義歯 器材と管理	・インプラント（2-4） ・顎補綴 ・切削器具、印象採得用器材、模型材（2-5）
8	補綴装置の補綴・除去	・除去、有床義歯の調整、リベースとリライニング

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯科麻酔学	2 学年	前期	講義	1	8
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccees	
鈴木 豊典	金曜日・2 講目			講義時に連絡	

1. 授業の一般目標と到達目標

<一般目標> 歯科治療における全身管理、精神鎮静法、局所麻酔および全身麻酔の基本を理解する。

<到達目標>

- ①麻酔の目的について説明できる。
- ②局所麻酔の薬理学的作用と局所麻酔法や施術時の注意点を説明できる。
- ③全身麻酔の適応症と種類について説明できる。
- ④バイタルサインを列挙し、説明できる。
- ⑤安全で快適な歯科治療のための各種方法を説明できる。
- ⑥歯科治療時の偶発症とその対策について説明できる。

2. 授業の進め方(授業の方法)

教科書の内容を確実に理解した上で実際の臨床について学習する。
過去に国家試験で出題された問題について解説する。

3. 教科書

歯科衛生学シリーズ:「口腔外科学・歯科麻酔学 第2版」医歯薬出版株式会社

4. 参考図書・資料

5. 授業心得

歯科治療に必要な麻酔の知識を習得し実際の臨床に生かせるように学習する。

6. 評価の方法

・定期試験 100%

7. その他

令和7年度（15期生） 年間授業計画 科目：歯科麻酔学

回	修復主題	修復内容
1	歯科麻酔と歯科衛生士	歯科治療に必要な全身的知識を習得する。
2	局所麻酔・精神鎮静法	歯科治療に必要な麻酔薬・精神鎮静法について学ぶ。
3	全身麻酔・ハリ麻酔	歯科治療に必要な全身麻酔・ハリ麻酔について学ぶ。
4	救急蘇生法	偶発症が発生した時に迅速かつ的確な処置ができるように学ぶ。
5	有病者の歯科治療	歯科治療で問題となる全身疾患について学ぶ。
6	高齢者の歯科治療	歯科治療で問題となる高齢者の特徴について学ぶ。
7	障害者の歯科治療	障害者治療と歯科麻酔の関わりを学ぶ。
8	歯科麻酔のまとめ	歯科麻酔に関する知識を実際の臨床に生かせるよう整理する。

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
小児歯科学	2 学年	前期	講義	1	8
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
三宅 有	火曜日・3講目 金曜日・1講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p><一般目標></p> <p>小児の身体的・精神心理的特徴と小児の歯科治療の留意点を理解する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> ①顎・顔面の成長発育とその障害を説明できる。 ②成人歯科と小児歯科の違いを説明できる。 ③各年齢における小児の正常な成長発達に関する事項を説明できる。 ④歯の発育と異常について説明できる。 ⑤歯列および咬合の発育と発育障害について説明できる。 ⑥乳歯と幼若永久歯の形態的特徴ならびにう蝕の特徴について説明できる。 ⑦小児のう蝕予防と進行抑制法について説明できる。 ⑧乳歯と幼若永久歯の歯冠修復法ならびに歯内療法について説明できる。 ⑨小児の口腔外科的疾患を説明できる。 ⑩小児の歯の外傷についてその種類と処置法について説明できる。 ⑪咬合誘導の概念ならびに保隙装置の種類、適応症および留意点を説明できる。 ⑫小児の対応法の要点について説明できる。 					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
<p>教科書を中心として講義を行い、また具体的事例を持って学生に分かりやすい内容を心がける。</p> <p>講義中の質問は歓迎する。積極的に授業へ参加して戴くよう期待する。</p>					
3. 教科書					
歯科衛生学シリーズ:「小児歯科学」医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
随時配布					
5. 授業心得					
真面目な授業態度を望みます。					
6. 評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> ①定期試験 80% ②出席・平常点 20% 					
7. その他					

令和7年度（15期生） 年間授業計画 科目：小児歯科学

回	修復主題	修復内容
1	小児歯科学概論 小児の心身の発育	小児歯科学とは 心身の発育
2	小児の生理的特徴 小児の顔面頭蓋の発育	頭蓋骨と顔面頭蓋の発育
3	歯の発育とその異常	乳歯・幼若永久歯の特徴
4	歯列・咬合の発育と異常	歯列・咬合の発育と異常や習癖について
5	小児の歯科疾患	う蝕のメカニズム 歯周疾患 口腔軟組織の異常
6	歯科診療室における小児の対応と行動	小児期の歯科的問題点と患者対応法
7	小児歯科診療とその特徴	歯科診療室における小児の行動と行動療法
8	小児歯科診療と歯科衛生士の役割	乳歯の歯内療法と小児の外科処置、う蝕予防

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯科保存修復学	2 学年	前期	講義	2	15
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccees	
藤井 宜和	月曜日・4講目			講義時に連絡	

1. 授業の一般目標と到達目標

<一般目標>

歯科衛生士業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、診断および治療法の基本を理解する。

<到達目標>

- ①歯の硬組織疾患の種類と処置法を説明できる。
- ②窩洞の分類と窩洞形態の原則を説明できる。
- ③修復に必要な前準備の目的と意義を説明できる。
- ④修復法の種類と特徴を説明できる。
- ⑤歯の切削器械・器具の種類と特徴を説明できる。
- ⑥各修復処置の手順を理解し、歯科衛生士としての役割を説明できる。

2. 授業の進め方(授業の方法)

教科書の内容に基づき講義を行う。

3. 教科書

歯科衛生学シリーズ:「保存修復学・歯内療法学」医歯薬出版株式会社

4. 参考図書・資料

5. 授業心得

遅刻・途中退室は認めない(特別な理由のある場合は除く)

私語・スマートフォンの使用はしない

6. 評価の方法

・定期試験 100%

7. その他

回	修復主題	修復内容
1	総論 歯の保存療法の種類	・歯の保存療法と歯科保存学の定義
2	総論歯の保存療法の種類	・対象となる疾病
3	口腔審査（歯および歯周組織）	・基礎知識と前準備・現症の診査
4	保存修復学の意味と概要1	・保存修復の適応症と禁忌症
5	保存修復学の意味と概要2	・う蝕の病態と形成形態
6	保存修復学の意味と概要3	・処置ステップの流れと概要
7	アマルガム修復	・アマルガム修復とは ・歯科用アマルガムの組成と種類 ・アマルガム修復の特徴 ・アマルガム修復の適応症・水銀の取り扱い ・アマルガム修復の手順
8	コンポジットレジン修復	・コンポジットレジン修復とは ・コンポジットレジンの開発の経過 ・コンポジットレジン組成と種類
9	コンポジットレジン修復	・コンポジットレジンの特徴 ・コンポジットレジン修復の手順
10	小テスト	
11	セメント修復	・セメント修復とは・セメント修復の種類と用途 ・ガラスアイオノマーセメント修復 ・その他の修復用セメント・ 合着、裏層用セメント ・裏層用セメント（間接歯髄覆罩）（間接覆髄）
12	ラミネートベニア修復	・ラミネートベニア修復法とは ・ラミネートベニア修復法の種類 ・ラミネートベニア修復の適応症と禁忌症 ・ラミネートベニア修復の特徴 ・ポーセレンラミネートベニア修復法
13	鑄造修復	・鑄造修復とは ・鑄造修復の特徴 ・鑄造修復の適応症と禁忌症 ・鑄造修復の手順
14	その他の修復法	・ポーセレンインレー修復・レジニンレー修復
15	講義のまとめ	

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯内療法学	2 学年	前期	講義	2	15
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
大串 瑠菜	月曜日・1 講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p><一般目標></p> <p>歯科衛生士業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、診断および治療法の基本を理解する。</p> <p><到達目標></p> <p>①歯髄・根尖性歯周組織疾患の分類と症状を説明できる。</p> <p>②歯髄の保存療法・除去療法を説明できる。</p> <p>③感染根管治療の目的と意義を説明できる。</p> <p>④外科的歯内療法の種類と適応症を説明できる。</p> <p>⑤各処置の手順を理解し、歯科衛生士としての役割を説明できる。</p> <p>⑥歯内療法における医療安全対策を説明できる。</p>					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
教科書の内容に基づき講義を行う。					
3. 教科書					
歯科衛生学シリーズ:「保存修復学・歯内療法学」医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
<p>遅刻・途中退室は認めない(特別な理由のある場合は除く)</p> <p>私語、スマートフォンの使用はしない。</p> <p>積極的に授業に参加すること。解らないことがあれば質問をして下さい。</p>					
6. 評価の方法					
・定期試験 100%					
7. その他					

令和7年度（15期生） 年間授業計画 科目：歯内療法学

回	修復主題	修復内容
1	1章 歯内療法の概要①	・歯内療法学とは ・象牙質知覚過敏症 ・歯髄疾患
2	1章 歯内療法の概要②	・根尖性歯周疾患 ・歯内、歯周病変 ・検査と診断
3	2章 歯髄保存療法①	・歯髄保存療法とは ・歯髄鎮痛消炎療法と歯髄鎮痛消炎薬 ・間接覆髄法
4	2章 歯髄保存療法②	・直接覆髄法 ・暫間的間接覆髄法
5	3章 歯髄除去療法①	・生活歯髄切断法
6	3章 歯髄除去療法②	・麻酔抜髄法
7	4章 根管治療、根管充填①	・根管治療の概要 ・根管治療の術式
8	4章 根管治療、根管充填②	・根管充填 ・根未完成歯の根管処置
9	5章 外科的歯内療法	・外科的歯内療法とは ・外科的歯内療法の術式
10	6章 歯の外傷	・歯の外傷とは ・歯の外傷の分類と処置 ・歯の保存液を用いた脱離歯の保存法
11	7章 歯内療法における安全対策	・器具の根管内破折 ・根管壁穿孔 ・皮下気腫 ・誤飲、誤嚥
12	8章 歯内療法における歯科衛生士の役割	・歯内療法に使用する器材、薬剤の管理 ・歯内療法処置における患者への説明と指導
13	まとめ①	講義のまとめ
14	まとめ②	講義のまとめ
15	まとめ③	講義のまとめ

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
高齢者・障害者歯科	2 学年	後期	講義	2	16
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
池田 哲・三宅 有	木曜日・2講目/火曜日・3 講目/金曜日・1 講目			講義時に連絡	

1. 授業の一般目標と到達目標

1. 高齢者歯科

<一般目標> 高齢者の身体的・精神心理的特徴と歯科治療上の留意事項を理解する。

<到達目標>

- ①高齢者の口腔の働き、役割の重要性を説明できる。
- ②高齢者の心身的・社会的特性を説明できる。
- ③要介護高齢者の身体疾患と口腔疾患について説明できる。
- ④高齢者の保健指導及び要介護高齢者への対応能力を身につける。
- ⑤口腔ケアについて説明できる。
- ⑥歯科訪問診療を説明できる。
- ⑦高齢者の摂食・嚥下機能について説明できる。
- ⑧高齢者の摂食・嚥下リハビリテーションについて説明できる。

2. 障害者歯科

<一般目標>

障害者の身体的・精神心理的特徴と歯科治療上の留意事項を理解する。

<到達目標>

- ①障害者の概要を述べるができる。
- ②障害者の心身的・社会的特性を説明できる。
- ③障害者の口腔の働き、役割の重要性を理解する。
- ④障害者の保健指導及び要介護障害者への対応能力を身につける。
- ⑤障害者の歯科治療について説明できる。
- ⑥障害者歯科における医療安全について説明できる。
- ⑦障害者の摂食・嚥下障害とリハビリテーションについて説明できる。

2. 授業の進め方(授業の方法)

・ 基本は講義形式であるが、事例およびDVD等の視聴覚教材も利用する。

3. 教科書

歯科衛生学シリーズ:「高齢者歯科」 医歯薬出版株式会社

歯科衛生学シリーズ:「障害者歯学」 医歯薬出版株式会社

4. 参考図書・資料

5. 授業心得

①遅刻・中途退出 ②私語・スマートフォンオン・居眠りはしない ③その他授業に差し障りのある行為に対する諸注意

6. 評価の方法

・定期試験 100%

7. その他

令和7年度（15期生） 年間授業計画 科目：高齢者・障害者歯科

回	修復主題	修復内容
1	高齢者をとりまく社会と環境	・高齢社会と健康 ・高齢者にかかわる法制度 ・高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴
2	加齢による身体的・精神的変化と疾患	・加齢に伴う身体的機能の変化 ・高齢者の精神・心理的变化 ・高齢者に多い全身的疾患・障害および口腔疾患
3	高齢者の状態の把握	・高齢者の生活機能の評価 ・高齢者歯科と臨床検査 ・高齢者の栄養状態 ・高齢者の薬剤服用
4	口腔のケア	・高齢者に対する口腔のケア ・有病高齢者への口腔ケア ・要介護高齢者への口腔ケア
5	摂食・嚥下リハビリテーション	・高齢者のリハビリテーションの概要 ・摂食・嚥下の評価と対応
6	摂食・嚥下リハビリテーション	・誤嚥性肺炎の予防のため訓練 ・在宅訪問歯科診療における摂食・嚥下リハビリテーション ・介護施設における摂食・嚥下リハビリテーション
7	高齢者に関わる医療と介護	・在宅訪問診療の概要 ・歯科衛生士が関わる公的介護保険の概要 ・かかりつけ歯科の役割 ・訪問看護と歯科の役割
8	高齢者歯科における歯科衛生過程	・歯科衛生過程の概要 ・歯科衛生過程 事例
9	障害の概念	・歯科医療におけるスペシャルニーズ ・障害の分類 ・生活機能に特別な支援を必要とする人のQOL ・ノーマライゼーションとバリアフリー ・スペシャルニーズの発生とその受容 ・障害のある人と医療・福祉制度の仕組み
10	歯科医療で特別な支援が必要な疾患	・精神発達 ・心理的発達と行動障害 ・運動障害（神経・筋系疾患） ・感覚障害 ・音声言語障害 ・精神および行動の障害
11	障害者の歯科医療と行動調整①	・コミュニケーションの方法 ・行動療法（行動変容法） ・薬物的行動調整法
12	健康支援と口腔衛生管理	・障害者本人や介助者が行う口腔ケアへの支援 ・専門的口腔ケア ・特別な配慮が必要な患者の口腔衛生管理
13	リスク評価と安全管理	・障害者歯科におけるリスク評価 ・障害別のリスクと対応 ・医療安全管理体制 ・感染制御体制
14	摂食・嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割	・摂食・嚥下リハビリテーションとは ・摂食・嚥下障害と口腔管理 ・摂食・嚥下障害と栄養管理 ・摂食・嚥下障害の評価法 ・摂食機能療法 ・小児期の摂食・嚥下障害への対処法
15	障害者の歯科医療と行動調整②	・体動のコントロールとその実践
16	地域における障害者歯科	・障害者歯科と地域医療連携 ・障害者歯科と関連職種 ・保健・医療・福祉のネットワーク ・一次・二次・三次医療機関における障害者歯科

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
口腔外科学	2 学年	前期	講義	2	15
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccess	
曾我部 陽平 / 他	木曜日・2 講目			講義時に連絡	

1. 授業の一般目標と到達目標

<一般目標> 口腔・顎顔面領域の疾患の特徴と診断および治療法の概念を理解する。

<到達目標>

- ①口腔・顎顔面領域に生じる各種疾患を大きく分類できる。
- ②先天異常(口唇・口蓋裂など)と発育異常(顎変形症など)の病態と治療法の原則を説明できる。
- ③歯の外傷、歯槽骨骨折および顎骨骨折の診断と治療法の原則を説明できる。
- ④各種口腔粘膜疾患の特徴と治療法の原則を説明できる。
- ⑤歯槽部、顎骨および周囲組織の炎症の感染経路と診断および治療の原則を説明できる。
- ⑥顎骨および口腔軟組織に発生する嚢胞の特徴と治療法の原則を説明できる。
- ⑦口腔・顎顔面領域の良性腫瘍、悪性腫瘍、腫瘍類似疾患の種類と特徴および治療法の原則を説明できる。
- ⑧顎関節疾患(脱臼、顎関節症、顎関節硬直症など)の診断と治療法の原則を説明できる。
- ⑨唾液腺疾患(炎症、唾石症、唾液腺腫瘍)の特徴と治療法の原則を説明できる。
- ⑩口腔・顎顔面領域の神経疾患(三叉神経痛、顔面神経麻痺など)の特徴を説明できる。
- ⑪口腔に症状を現す血液疾患(貧血、白血病、血友病、特発性血小板減少性紫斑病など)の特徴を説明できる。
- ⑫抜歯・口腔外科小手術(局所麻酔を含む。)の手順と必要な器材を説明できる。
- ⑬抜歯の適応と禁忌を概説できる。
- ⑭抜歯・口腔外科小手術(局所麻酔を含む。)後の注意を説明できる。

2. 授業の進め方(授業の方法)

教科書を基本とし、出来るだけ多くの症例をスライド供覧します。
過去に国家試験で出題された問題について、解説します。

3. 教科書

歯科衛生学シリーズ:「口腔外科学・歯科麻酔学 第2版」医歯薬出版株式会社

4. 参考図書・資料

5. 授業心得

基礎疾患を持つ患者の歯科治療、口腔外科処置を安全、安楽に行えるよう基礎知識を身につける。

6. 評価の方法

・定期試験 100%

7. その他

令和7年度（15期生） 年間授業計画 科目：口腔外科学

回	修復主題	修復内容
1	口腔外科と歯科衛生士	口腔外科領域の主な疾患と歯科衛生士の役割について
2	口腔疾患と内科系疾患との関係	口腔疾患の全身への影響、内科系疾患を持つ患者の歯科治療
3	口腔領域の先天異常・変形	歯・軟組織の先天異常、唇裂口蓋裂、顎の先天異常と変形
4	口腔領域の損傷	歯の外傷、顎骨骨折、軟組織損傷の症状と治療法
5	口腔粘膜疾患	口腔粘膜疾患と全身疾患、皮膚疾患との関連について
6	口腔領域の炎症	歯性炎症、感染症の治療について
7	顎関節疾患	顎関節症、外傷の治療について
8	口腔領域の嚢胞	口腔領域に発生する嚢胞の分類、診断、治療法
9	口腔領域の腫瘍	口腔領域に発生する良性腫瘍、悪性腫瘍について
10	唾液腺疾患、 口腔領域の神経疾患	唾液腺における炎症、腫瘍について、神経疾患について
11	血液疾患と出血性素因、 口腔・顔面に症状を現す症候群	血液疾患、出血性素因について、症候群について理解する
12	診察と診断、滅菌と消毒、 創傷処置	診察における歯科衛生士の役割、滅菌と消毒の概念と創傷処置について
13	抜歯術	抜歯の適応症、禁忌症、器材の準備や介助について
14	口腔外科小手術	口腔外科小手術の概要と準備や介助について
15	口腔出血に対する処置法	出血の原因と止血法、準備などについて

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯科矯正学	2 学年	前期	講義	2	16
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccess	
角野 晃大・金山 隼人	水曜日 1 講目・3 講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p><一般目標> 不正咬合の治療意義と診断および治療法の概念を理解する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> ①歯、歯列、咬合の役割と全身との関係を説明できる。 ②年齢に応じた正常咬合（乳歯列から永久歯列）について説明できる。 ③不正咬合について説明できる。 ④不正咬合の原因と障害を把握し、矯正治療の目的を説明できる。 ⑤矯正力と歯の移動時の生体反応を説明できる。 ⑥不正咬合の治療に適した装置を識別し、その構造、機能を説明できる。 ⑦矯正治療に用いる器具・器材とその取り扱いについて説明できる。 ⑧矯正治療時の口腔内状況を評価し、適切な口腔内管理方法を説明できる。 					
2. 授業の進め方（授業の方法）					
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に教科書に沿って行っていきます ・必要に応じて資料の配布も行います ・理解を深めるために小テストを行う場合があります 					
3. 教科書					
歯科衛生学シリーズ：「歯科矯正学 第2版」 医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
MFT 入門：山口秀晴 他 監修 わかば出版					
5. 授業心得					
<ul style="list-style-type: none"> ・体調管理をしっかり行い、授業に集中できるようにこころがける。 ・授業中の私語、携帯電話の使用および無断での入退室を行わない等マナーを守るようにする。 					
6. 評価の方法					
・定期試験 100%					
7. その他					

回	修復主題	修復内容
1	導入、概論	歯科矯正学および歯科矯正治療とは何か
2	成長・発育	全身、顎顔面の成長
3	成長・発育	顎顔面および歯と歯列の成長
4	咬合	咬合とは何か
5	不正咬合	不正咬合の分類、原因および予防
6	矯正診断に関する知識	資料調整、分析および治療方針の決定
7	矯正力と歯の移動	矯正治療の生物力学
8	矯正装置・保定装置	矯正装置の分類や使い分け
9	矯正歯科治療の実際	治療の流れと不正咬合の種類による違い
10	矯正歯科治療の実際	歯列期に応じた不正咬合のとらえ方・治療例
11	診査時の衛生士の役割	検査の補助と流れ
12	診療時の衛生士の役割Ⅰ	器具・材料について
13	診療時の衛生士の役割Ⅱ	装置装着時の補助と指導
14	口腔保健管理	口腔衛生指導と管理
15	口腔筋機能療法	口腔習癖と指導法
16	器具・資料の管理	器具・材料の消毒・滅菌・保管、資料管理について

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯科予防処置法	2 学年	通年	講義・演習・実習	3	45
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
椎名 美貴 /他	月曜日 ~ 金曜日			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p><一般目標> 口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な技術、技能、および態度を修得する。</p> <p><到達目標></p> <p>1) 基礎知識</p> <p>①う蝕予防処置に関連する生活習慣の把握方法と項目を説明できる。 ②う蝕と全身疾患の関連について説明ができる。 ③う蝕予防処置の臨床的効果、作用機序、安全性および便宜性について説明ができる。 ④う蝕予防処置法の選択方法を説明できる。 ⑤う蝕リスク判断のために行う、う蝕活動性試験の目的と種類を説明できる。</p> <p>2) フッ化物歯面塗布法</p> <p>①使用薬剤の種類と取り扱い方を説明できる。 ②フッ化物歯面塗布の適応歯と術式を説明できる。 ③フッ化物歯面塗布を実施できる。</p> <p>3) フッ化物洗口法</p> <p>①使用薬剤の種類、濃度および取り扱い方を説明できる。②対象年齢と洗口方法を説明できる。 ③フッ化物洗口法実施上の注意点を説明できる。</p> <p>4) 小窩裂溝充填法</p> <p>①小窩裂溝充填材の種類と特徴を説明できる。 ②小窩裂溝充填の適応症を説明できる。 ③小窩裂溝充填の術式を説明できる。 ④小窩裂溝充填実施上の注意点を説明できる。</p> <p>5) スケーリング</p> <p>①超音波スケーラーを操作できる。 ②エアスケーラーを操作できる。</p> <p>6) 歯面清掃</p> <p>①歯面清掃器の特徴と使用上の注意事項を説明できる。 ②歯面清掃器を操作できる。</p>					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
講義・演習・講義と演習の同時進行					
3. 教科書					
歯科衛生学シリーズ:「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
・爪、頭髪等の身だしなみを整えて臨む。 ・アクセサリ、時計ははずす。 ・技術は訓練するほど向上します。練習を怠らないこと。・基本的な筋力をつけるためのトレーニングは行うよう心がけましょう。					
6. 評価の方法					
定期試験 90% 実技試験 10%					
7. その他					
使用器材・・・スケーラーセット一式、顎模型、白衣、エプロンなど					

令和7年度（15期生） 年間授業計画 科目：歯科予防処置

回	履修主題	履修内容
1	う蝕予防処置 基礎知識1	フッ化物の基礎知識1
2	基礎知識2	フッ化物の基礎知識2
3	基礎知識3	フッ化物の基礎知識3（悪心・嘔吐発現フッ化物溶液量について）
4	基礎知識4	フッ化物歯面塗布法・フッ化物洗口法
5	相互実習1	フッ化物溶液塗布法（綿球法）の相互実習
6	相互実習2	フッ化物溶液（フォーム）応用の相互実習
7	う蝕予防処置 基礎知識5	小窩裂溝填塞法の基礎
8	基礎実習1	小窩裂溝填塞法の基礎実習
9	相互実習3	小窩裂溝填塞法の相互実習
10	基礎知識6	う蝕活動性試験1（カリエスリスクテスト）
11	相互実習4	う蝕活動性試験2（カリエスリスクテスト）
12	う蝕予防処置まとめ	フッ化物・小窩裂溝填塞・う蝕活動性試験のまとめ
13	基礎知識7	偶発事故の予防とその対策法
14	機械的スケーラーと操作法	パワースケーラーの原理・構成・特徴
15	基礎実習2	超音波・エアスケーラーの取り扱い方1
16	基礎実習3	超音波・エアスケーラーの取り扱い方2
17	相互実習5	エアスケーラーの相互実習①
18	相互実習6	エアスケーラーの相互実習②
19	相互実習7	超音波スケーラーの相互実習①
20	相互実習8	超音波スケーラーの相互実習②
21	基礎知識8	歯面清掃器の取り扱い方
22	相互実習9	歯面清掃器の相互実習
23	まとめ	超音波・エアスケーラー・歯面清掃器のまとめ
24	相互実習10	プロービング実習①
25	相互実習11	プロービング実習②
26	相互実習12	プロービング試験
27	基礎実習4	マネキンでのスケーリング実習①
28	基礎実習5	マネキンでのスケーリング実習②
29	相互実習13	歯石除去①
30	相互実習14	歯石除去②
31	相互実習15	歯面研磨①
32	相互実習16	歯面研磨②
33	総括1	まとめ1
34	総括2	まとめ2
35	総括3	まとめ3

36	集団におけるう蝕予防処置	フッ化物溶液塗布法の集団応用
37	// 1	フッ化物集団応用の実習の立案・検討
38	// 2	集団応用実習(各個法)1
39	// 3	集団応用実習(フロー法)2
40	// 4	集団応用実習(フロー法)3
41	総合演習1	総合演習1
42	総合演習2	総合演習2
43	総合演習3	総合演習3
44	総合演習4	総合演習4
45	総合演習5	総合演習5

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯科保健指導法	2 学年	後期	講義・演習・実習	3	45
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccees	
田村 智美／他	月曜日～金曜日			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p><一般目標></p> <p>健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持し、増進するために、 プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 歯科保健の概要を説明できる ② 歯科衛生の過程の概念を説明できる。 ③ 各ライフステージ別の口腔清掃の指導ができる。 ④ 地域歯科保健事業における歯科衛生士の役割を説明できる。 ⑤ 小学校を対象とした歯科衛生教育ができる。 					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
講義 実習 講義と実習の同時進行					
3. 教科書					
歯科衛生学シリーズ:「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
実習に必要なものの忘れ物をしない。 爪、頭髪等の身だしなみを整えて臨む。 アクセサリー、時計ははずす。					
6. 評価の方法					
・定期試験 100%					
7. その他					
使用器材・・・スケーラーセット、顎模型、歯ブラシセット					

回	履修主題	履修内容
1	口腔内写真1	基礎知識
2	口腔内写真2	口腔内の撮影方法実習
3	口腔内写真3	口腔内の撮影方法実習
4	口腔内写真4	口腔内の撮影方法実習
5	成人保健指導 1	生活歯援プログラムの意義、経緯
6	成人保健指導 2	成人歯科健診プログラムの実際
7	成人保健指導 3	コミュニケーションスキルの基礎
8	成人保健指導 4	相互実習
9	集団指導のための媒体づくり	集団指導のための媒体づくり
10	学校保健における歯科保健指導1	指導案づくり①
11	学校保健における歯科保健指導2	指導案づくり②
12	学校保健における歯科保健指導3	教育媒体づくり①
13	学校保健における歯科保健指導4	教育媒体づくり②
14	学校保健における歯科保健指導5	パワーポイント作製
15	学校保健における歯科保健指導6	パワーポイント作製
16	ブラッシング指導モデル実習1	基礎知識、実習の手順
17	ブラッシング指導モデル実習2	プレゼンテーションの手順
18	ブラッシング指導モデル実習3	思春期のブラッシング指導①(歯式、プロービング)
19	ブラッシング指導モデル実習4	思春期のブラッシング指導②(チャート記入→TBI→記録)
20	ブラッシング指導モデル実習5	思春期のブラッシング指導③(リコール)
21	ブラッシング指導モデル実習6	思春期のブラッシング指導④
22	市町村母子歯科保健指導1	乳幼児健康診査の基礎知識①(1歳6か月)
23	市町村母子歯科保健指導2	乳幼児健康診査の基礎知識②(3歳)
24	市町村母子歯科保健指導3	乳幼児健康診査(1歳6か月・3歳児)の実習①
25	市町村母子歯科保健指導4	乳幼児健康診査(1歳6か月・3歳児)の実習②
26	口腔の器質的問題の把握	口臭
27	口腔機能の把握	口腔機能の評価
28	歯科衛生介入としての歯科保健指導	口腔機能管理に関わる指導 生活習慣の指導(非感染性疾患(NCDs)・喫煙者に対する指導)
29	配慮を要する者への歯科衛生介入	大規模災害被災者
30	口腔清掃用具の工夫と作製方法	口腔清掃用具の工夫と作製方法
31	口腔ケア実習1	高齢者への口腔ケアの基礎知識
32	口腔ケア実習2	要介護者への口腔ケアの基礎実習
33	口腔機能向上実習1	口腔機能向上実習1
34	口腔機能向上実習2	口腔機能向上実習2
35	地域歯科保健活動における教健康育	高齢者対象の健康教室実習1
36	地域歯科保健活動における教健康育	高齢者対象の健康教室実習2
37	地域歯科保健活動における教健康育	小学生対象の歯科保健教育

38	地域歯科保健活動における教健康育	小学生対象の歯科保健教育実習
39	歯科衛生の過程の進め方1	歯科衛生過程の概要
40	歯科衛生の過程の進め方2	歯科衛生アセスメント(情報収集、情報処理)
41	歯科衛生の過程の進め方3	歯科衛生診断(問題の明確化)
42	歯科衛生の過程の進め方4	歯科衛生計画立案
43	歯科衛生の過程の進め方5	歯科衛生介入(歯科衛生計画の実施)
44	歯科衛生の過程の進め方6	歯科衛生評価(プロセスと結果の評価)
45	歯科衛生の過程の進め方7	歯科衛生評価(プロセスと結果の評価)

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯科放射線学	2 学年	前期	講義・実習	1	8
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccees	
田中 力延	水曜日・4 講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p>目的・・・一年次の知識をベースに、臨床の場で活用できるようにする。</p> <p>目標・・・歯科X線撮影が日常の歯科診療の一部であることを理解する。</p>					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
スライドを用い、まとめテストをやる予定					
3. 教科書					
歯科衛生学シリーズ：「歯科放射線」医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
・復習に力を入れてください。					
6. 評価の方法					
定期試験 + 小テスト + 出席 = 100%					
7. その他					

令和7年度（15期生） 年間授業計画 科目：歯科放射線学

回	修復主題	修復内容
1	全額撮影(10枚法)	下顎撮影の要点
2	注意すべきX線撮影	小児・妊娠のX線撮影
3	注意すべきX線撮影	X線写真の見方
4	パノラマX線画像	準備
5	パノラマX線画像	位置づけ
6	写真処理	現像と定着
7	品質管理	写真処理
8	放射線治療	有効性と副作用

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯科診療補助法	2 学年	通年	講義・演習・実習	3	45
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
大串 瑠菜	木曜日・4 講目/他			講義時に連絡	

1. 授業の一般目標と到達目標

<一般目標> さまざまなライフステージにおける高度医療に対応するために、専門的な歯科診療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を身につける。

1 診療補助

<一般目標> 専門的な歯科診療の補助に対応するために必要な基本的知識、技術および態度を習得する

<到達目標>

- 1) 概要
 - ①歯科診療補助における歯科衛生士の役割を列挙できる。
 - ②チーム医療の必要性を述べるができる。
- 2) 患者への対応
 - ①患者の状態に応じて適切に対応できる。
 - ②全身疾患の状態を考慮した歯科診療補助ができる。
 - ③感染症患者への配慮ができる。
- 3) 診療設備
 - ①歯科用ユニットの管理ができる。
 - ②エックス線撮影の準備ができる。
 - ③消毒・滅菌器具の管理ができる。
- 4) 医療安全管理
 - ①感染に応じた対応ができる。
 - ②偶発事故について適切に対応できる。
- 5) 診療時の共同動作
 - ①診療に応じた器具の受け渡しができる。
 - ②診療に応じたバキューム操作ができる。
- 6) 消毒・滅菌
 - ①消毒薬の取り扱いができる。
 - ②各種滅菌器械の取り扱いができる。

2. 主要歯科材料の種類、取り扱いと管理

<一般目標> 歯科診療の補助に対応するために歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を修得する。

<到達目標> ①模型材の取り扱いができる。 ②概形印象の採得ができる。 ③仮封材の取り扱いができる。

3. 歯科治療時(保存・補綴・口腔外科・矯正・小児・高齢者)の診療補助

<一般目標> 歯科治療の補助に必要な患者対応および治療手順、薬剤と器材の使用法を修得する。

- <到達目標>
- ①ラバーダム防湿ができる。
 - ②切削用器械・器具の名称と用途を説明し準備ができる。
 - ③コンポジットレジン修復の手順および器具や材料の名称と用途を説明し、準備ができる。
 - ④インレー修復の手順および器具や材料の名称と用途を説明し、準備ができる。
 - ⑤歯髄処置の手順および薬剤や器材の取り扱いを説明し、準備ができる。
 - ⑥根管処置や根管充填の手順および薬剤や器材の取り扱いを説明し、準備ができる。
 - ⑦歯周外科治療の手順および薬剤や器材の取り扱いを説明し、準備ができる。
 - ⑧歯周用パックの取り扱いができる。
 - ⑨床義歯作製の手順および器材の名称と用途を説明し、準備ができる。
 - ⑩抜歯、小手術に用いる手順および器材の名称と用途を説明し、準備ができる。
 - ⑪矯正治療時に必要な口腔内・顔面写真の撮影手順を説明できる。

②小児歯科治療の手順および薬剤や器材の取り扱いを説明し、準備ができる。

③治療時の高齢者の対応ができる。

4. エックス線写真撮影時の診療補助

<一般目標>エックス線写真撮影時の補助に対応するために必要な撮影手順、放射線防護の方法を修得する。

<到達目標> ①口内法エックス線撮影法や部位に対するフィルムの位置づけと固定を説明できる。

②パノラマエックス線撮影の手順と位置づけを説明できる。

③フィルムの取り扱いや保管法を説明できる。

④患者の防護法を説明し、指導ができる。

2. 授業の進め方(授業の方法)

実習

講義と実習の同時進行

3. 教科書

歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」医歯薬出版株式会社

歯科衛生学シリーズ「歯科機器」医歯薬出版株式会社

歯科衛生学シリーズ「歯科材料」医歯薬出版株式会社

第4版 イラストと写真で分かる歯科材料の基礎 永末書店

必要に応じてプリント配布

4. 参考図書・資料

5. 授業心得

実習に必要なものの忘れ物をしない。

爪を切りそろえマニキュアなどぬらない、頭髪等の身だしなみを整えて臨む。

(アクセサリー、時計はず、装飾品などははずす)

予習・復習を行うようにする。

6. 評価の方法

定期試験 80% 実技試験 20%

7. その他

・実習での学びを深め、自己の目標や学習課題を明確にできるよう、積極的に取り組んでください。

令和7年度（15期生） 年間授業計画 科目：歯科診療補助法

回	履修主題	履修内容
1	主な全身疾患とその対応①	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点①
2	主な全身疾患とその対応②	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点②
3	ラバーダム防湿1 実習	2歯露出法
4	ラバーダム防湿2 実習	多数歯露出法
5	主要材料取り扱い基礎知識	暫間被覆冠、各種セメント、仮着材の取り扱い
6	主要材料取り扱い実習1	暫間被覆冠の製作（既製冠）
7	主要材料取り扱い実習2	暫間被覆冠の製作（筆積み法）
8	主要材料取り扱い実習3	暫間被覆冠の製作（応用）
9	主要材料取り扱い実習4	各種セメントの取り扱い
10	セッティング実習1	保存修復用器材のセッティング① （切削・研削・研磨用器具・直接修復：CR）
11	セッティング実習2	保存修復用器材のセッティング②（間接修復：In・漂白法）
12	セッティング実習3	歯内療法用器材のセッティング①（麻酔抜髄・根管治療）綿栓
13	セッティング実習4	歯内療法用器材のセッティング②（感染根管治療・根管充填） 衛生材料、綿栓
14	セッティング実習5	口腔外科小手術器材のセッティング①（普通抜歯）（困難抜歯）
15	セッティング実習6	口腔外科小手術器材のセッティング② （膿瘍切開、歯槽骨整形（歯根端切除、小帯切離）
16	歯肉包帯材の取り扱い実習	歯肉包帯材についての基礎知識・相互実習
17	セッティング実習7	補綴治療用器材のセッティング実習① （部分床義歯・全部床義歯・リベース）
18	セッティング実習8	補綴治療用器材のセッティング実習②（クラウン・ブリッジ）
19	セッティング実習9	補綴治療用器材のセッティング実習③（インプラント）
20	セッティング実習10	歯周外科治療のセッティング①（フラップ手術）
21	セッティング実習11	歯周外科治療のセッティング② （ポケット搔爬・歯肉切除・歯肉剥離・GTR・歯槽粘膜形成術）
22	セッティング実習12	歯科麻酔時の診療補助 （局所麻酔、吸入鎮静・静脈内鎮静、全身麻酔）
23	セッティング実習13	矯正治療用器材のセッティング①
24	セッティング実習14	小児歯科治療用セッティング①（小児歯科の歯科治療時の診療補助、乳歯用既成冠、クラウンフォームによる歯冠修復）
25	セッティング実習15	小児歯科治療用セッティング②（生活歯髄切断法）

26	X線セッティング実習1	X線撮影のセッティング(デンタル)
27	X線セッティング実習2	X線撮影のセッティング(デンタル)
28	X線セッティング実習3	X線撮影のセッティング(パノラマ)
29	X線セッティング実習4	X線撮影のセッティング(パノラマ)
30	X線セッティング実習5	X線撮影のセッティング(デジタル)
31	X線セッティング実習6	X線撮影のセッティング(デジタル)
32	模型製作実習1	口腔内模型製作(スタディモデル製作)
33	模型製作実習2	口腔内模型製作(寒天連合印象)
34	模擬患者実習1	模擬患者実習の目的と実習内容
35	模擬患者実習2	模擬患者実習
36	臨床基礎知識のまとめ1	カルテの略語、略称、傷病名について
37	臨床基礎知識のまとめ2	ライティング、バキューム操作の原則
38	臨床基礎知識のまとめ3	器具の受け渡し相互実習
39	臨床基礎知識のまとめ4	口腔内模型製作まとめ
40	臨床基礎知識のまとめ5	セメントの取り扱いまとめ
41	臨床基礎知識のまとめ6	暫間被覆冠の製作まとめ
42	まとめ1	総合演習1
43	まとめ2	総合演習2
44	まとめ3	総合演習3
45	まとめ4	総合演習4

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
臨地・臨床実習	2 学年	後期	実習	10	225
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
田村 智美・臨床実習教員・他	月曜日～木曜日(1講目～4講目)			0157-33-1316	

1. 授業の一般目標と到達目標

<一般目標> 歯科衛生業務を修得するために、歯科診療の場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術および態度を身につける。

<到達目標> ①対象に応じて配慮した対応ができる。

②対象者の守秘義務を遵守できる。

③診療室のルールを理解した行動ができる。

④医療安全管理に配慮した行動ができる。

⑤器材、機器および薬品の管理の方法を理解した行動ができる。

⑥歯科医師からの指示内容を理解し、実践できる。

⑦スタッフ(多職種を含む)と連携した共同動作、必要なサービスが実践できる。

2. 授業の進め方(授業の方法)

歯科医院、病院歯科での実習

3. 教科書

4. 参考図書・資料

5. 授業心得

- ・爪、頭髪等の身だしなみを整えて臨むこと。
- ・アクセサリー、時計ははずす。
- ・社会的なマナーを身につけて臨む。

6. 評価の方法

<臨床実習評価表 I・II> 各項目の5段階評価
実習評価100%

7. その他

・臨床実習マニュアル、実習記録用紙、スケーラーセット、顎模型、鉛筆、筆記用具

令和7年度（15期生） 年間授業計画 科目：臨地・臨床実習

	修復主題	修復内容
1～3 サイクル	臨床実習（歯科医院を実習）	<p>診療室での歯科衛生士の業務を実習する。 臨床で歯科衛生士業務の基本的な内容を見学し、その日学んだ内容を記録する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受付 ・ 問診 ・ 主訴の把握 ・ 治療開始の流れ ・ 予約の理解や日常的に行われる診療の流れや手順の理解)
4～5 サイクル	臨床実習（歯科医院を実習）	<p>患者さんに合わせた誘導・準備・片付け、 歯科材料の正しい取扱い、簡単な受付業務、 予防処置、保健指導、診療補助の業務</p>
	計75日間	

選択必修分野

接遇作法・受付事務

陶芸

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
接遇作法・受付事務	2 学年	前期	講義・演習	1	8
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
門脇 ひとみ / 他	火曜日・1 講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p><一般目標> 接遇の基本を学び、社会人としての身だしなみおよび歯科衛生士に必要な受付業務の対応能力を身につける。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ①笑顔で人と接することができる。 ②正しい言葉づかいができる。 ③医療人として、患者さんとの接し方を習得する。 					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
講義で基礎的なことを学んだ後、役割実演訓練法を行う。					
3. 教科書					
4. 参考図書・資料					
教科書:最新歯科衛生士教本「受付対応・事務」医歯薬出版					
5. 授業心得					
・受身の授業ではなく、積極性と熱意を持って参加してください。					
6. 評価の方法					
・実技試験10% 定期試験90%					
7. その他					

令和7年度（15期生） 年間授業計画 科目：接遇作法・受付事務

回	履修主題	履修内容
1	I編 基礎知識 1章 歯科診療所における 受付業務の必要性 2章：受付の基礎知識と業務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受付の必要性・受付の存在と意義 ・ 受付対応の仕事・社会保障と医療保険 ・ 診療録の作成と保管
2	//	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予診準備 ・ 診療計画 ・ 時間約束性 ・ リコール ・ 待合室の管理
3	魅力的な歯科医院とは	<ul style="list-style-type: none"> ・ 価値は患者さんが決めるもの ・ 歯科医療の価値段階 ・ 医療従事者としての心構え
4	II編 対応の実習 1章：対応の作法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力ある女性 ・ 一般的な作法 ・ 対応の要領 ・ 歯科衛生士の作法
5	2章：日常用語の使い方 3章：受付対応の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・ 敬語 ・ 話し言葉と書き言葉 ・ 聞くこと・話すこと ・ 患者対応の基本例 ・ 対象別対応の実際
6	4章：電話対応の実際 ロールプレイング	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電話対応の基本例 ・ 苦情電話への対応 ・ ロールプレイング
7	5章：総合演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受付業務のロールプレイング
8	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合確認（実技試験）

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
陶 芸	2 学年	前期	実習形式	1	15
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
松平 康生	金曜日/3・4講目/39 キャンパス			0157-33-1316	
1. 授業の目的と到達目標					
<p><一般目標></p> <p>創造的活動により精神的な豊かさを育む。集中力を養う。</p> <p>歯科衛生士として必要な巧緻性訓練の一環を福目的とする。</p> <p><到達目標></p> <p>陶芸に関する基礎技法を習得する。</p> <p>創造すること・表現することの楽しさを実感する。</p>					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
<p>○主にデモンストレーションによりスキルの解説をしながら進める。</p> <p>○代表的な基本技法を習得しながら、実際に使用できる器を作成する。</p> <p>○当日作成のデザインを各自決めておくこととする。</p> <p>○自由制作は事前にスケッチを提出し、作り方・必要な道具などについて計画・相談すること。</p>					
3. 教科書					
4. 参考図書・資料					
炎芸術、つくる陶磁郎他 制作サンプル					
5. 授業心得					
<p>注意事項は必ず守る(主に破損を防ぐのに必要である為)</p> <p>授業前に必要な道具類を準備しておく</p> <p>授業終了後の整理整頓(道具類の確認)、掃除を徹底する</p>					
6. 評価の方法					
授業態度	30%	積極的・意欲的に関わっていたか			
技法・技術の履修	40%	課題ごとの技法・技術を理解しどのくらい修得できたか			
作品評価	30%	丁寧に、かつ美しく仕上がるよう努力したか			
7. その他					

回	履修主題	履修内容
1	ひも作り法による制作	紐作り法による花瓶づくり
2	ひも作り法による制作	紐作り法による花瓶づくり
3	たたら作り コーヒーカップ①	たたら作りにより筒を作る - 底を作る、型の使用、接着の仕方
4	たたら作り コーヒーカップ②	たたら作りにより筒を作る - 取っ手を作る・装飾技法
5	電動ロクロ体験	電動ロクロによる抹茶茶碗作り ※待っている人は手びねりで湯呑
6	電動ロクロ体験	電動ロクロによる抹茶茶碗作り ※待っている人は手びねりで湯呑
7	電動ロクロ体験	電動ロクロによる湯呑 高台削り
8	電動ロクロ体験	電動ロクロによる湯呑 高台削り
9	たたら作り 中鉢	型を利用した成形法 進行状況に応じて変更有
10	自由制作 ①	履修した技法による自由制作 デザイン・作陶計画
11	自由制作 ②	履修した技法による自由制作
12	自由制作 ③	履修した技法による自由制作
13	施釉 ①	下絵の具・釉薬について、及び施釉の技法・注意事項等
14	施釉 ②	施釉
15	施釉 ③	施釉